

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

武豊町地域公共交通会議

平成21年4月30日設置

フィーダー系統 平成29年8月1日 確保維持計画策定

1.協議会が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

■ 地域の特性と背景

● 地域特性・公共交通問題

- ・ 面積25.92km²、人口42,473人（H27年国勢調査）
- ・ 名鉄河和線の3駅、JR武豊線1駅の鉄軌道があるが、路線バスはない。
- ・ 住民から公共交通サービスの提供に対する要望、公共交通空白問題を抱えていた。

● 地域公共交通の取組経過

- ・ H22/3に地域公共交通総合連携計画を策定。コミュニティバスの試行運行をH22/7/27に、事前予約制バス（タクシー）をH23/9/1より開始。

● 地域公共交通ネットワーク形成の考え方（フィーダー路線の位置づけ）

- ・ 総合連携計画で示した交通システムの狙いは、二つの鉄軌道を広域の南北方向の移動を支えるまちづくりの「骨格」として捉え、中心市街地の名鉄知多武豊駅を中心に、町内の主要施設と市街化区域をカバーするループ型のコミュニティバス路線を地域内の「幹線」として平成22年7月よりネットワークを構築している。
- ・ コミュニティバス・鉄軌道の利用促進と市街化調整区域等をカバーするため、事前予約制・区域運行の乗合タクシーをコミュニティバスの支線として接続させる形で、平成23年9月より運行を開始した。
- ・ 平成25年には調査補助を活用し、利用実態・住民ニーズを検証し、地域公共交通網形成計画への計画変更の検討を開始し、平成27年4月に策定した。
- ・ 当該計画の見直しを通して、4つのルートから、緑ルートを赤ルートに統合・再編し、平成27年10月より赤・青の2ルートへと事業転換を行っている。
- ・ **平成30年4月1日に、南部青ルート「市原農村広場」停留所の位置を変更した。**

■ 計画の将来像及び期間

● 武豊町地域公共交通網形成計画の将来像

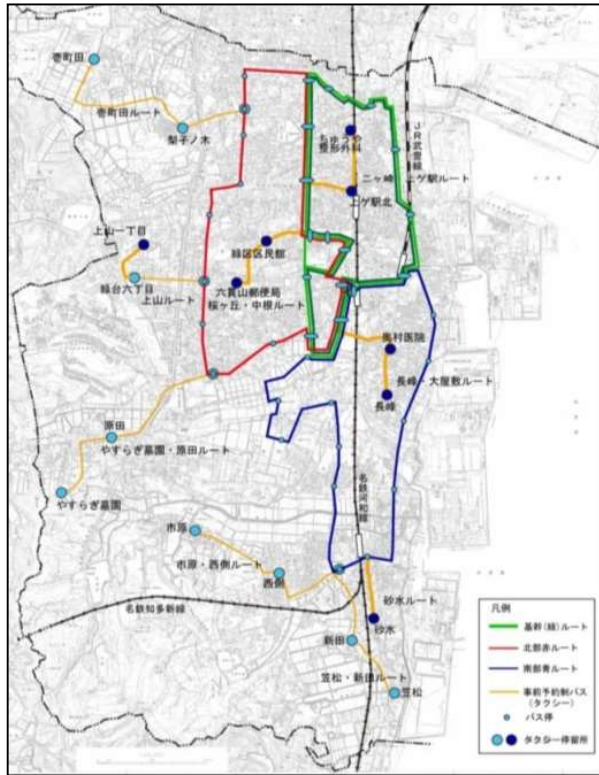
- ・ お年寄り等が、安全に暮らせ、気軽に移動できる生活の足の確保。

● 計画期間

- ・ 平成27年度～平成33年度（7カ年） 総合計画の計画期間に連動

1.協議会が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

■ 公共交通ネットワークイメージ



再編後のネットワーク
(平成30年9月末現在)



2.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容 (Do)

①武豊町コミュニティバス事業 (事業主体：武豊町、交通事業者)

【補助対象事業】

- 地域公共交通確保維持改善事業 (平成30年度)
(幹線系統補助：武豊町コミュニティバス 赤ルート)
(フィーダー系統補助：武豊町コミュニティバス 青ルート)

【非補助事業】

- 事前予約制バス (タクシー) 事業：乗合タクシー

②公共交通利用促進事業 (事業主体：武豊町、交通事業者、地域組織)

【非補助事業】

- 利用促進友の会による利用促進事業 (武豊町補助、地域組織)
…ゆめころんの日ものりものフェスティバルの開催、憩いのサロンでのPR事業
- 産業まつりコミバス無料の日事業 (武豊町)
- 時刻表の改変 (武豊町)・・・平成30年4月対応
- 町内保育園へのバス出張訪問「はじめてのゆめころん」 (武豊町)
- 町内保育園と協力して「ゆめころんのうたのおどり」完成 (武豊町)

3.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

● バスネットワーク（コミュニティバス）の目標設定と評価基準

- 安定した事業を目指すため、「対前年比プラスの利用者増」と「財政支援額の悪化を防ぐ」
- 気軽に利用されている姿を描くため、アウトカム指標として「住民の公共交通の利用割合が、現状値よりも向上している」目標を設定する。

平成30年度 生活交通確保維持改善計画の目標値

青ルート年間利用者数	16,400人
赤ルート年間利用者数	37,100人
小計	53,500人

● 地域全体の公共交通網について（鉄道網を含めたネットワーク全体について）

- ・ 武豊町の公共交通ネットワークは、鉄道駅を基点に、バスネットワークを形成し、幹線系統の赤ルートとフィーダー系統の青ルートを形成している。

● 地域全体の公共交通網を踏まえた評価（幹線系統を含めたネットワーク全体の評価）

- ・ コミュニティバス全体及び赤ルートの利用者数は、前年平成29年度との比較で大幅に増加している。一方で、青ルートの利用者数は457人減少している。（詳細は次ページに整理）
- ・ コミュニティバスの利用を促す乗合タクシーの利用もH29年度の1,434人から1,078人に約25%減少した。

3.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

● 生活交通確保維持改善計画に掲げられた目標値についての評価 (コミュニティバスの評価)

- 生活交通確保維持改善計画に掲げていた目標値に対して、ネットワーク全体の利用実績は上回ったものの、フィーダー系統において目標が達成できなかった。
- 地域公共交通網形成計画での目標では、路線別の利用者数の推移を対前年比プラスとしているが、青ルートの利用者数が対前年比マイナスとなり、目標が達成できなかった。

<バスネットワーク全体の目標設定と利用実績評価>

平成30年度 (H29/10~H30/9)	H28年度 実績	H29年度 実績	H30年度 目標	H30年度 実績	達成状況
ネットワーク全体	47,930人	54,516人	53,500人	56,552人	達成
幹線系統：赤ルート	33,803人	38,162人	37,100人	40,655人	達成
フィーダー系統：青ルート	14,127人	16,354人	16,400人	15,897人	未達成

● 適切に事業が実施できたか

- 平成28年度に再編した際に利用者数は大幅に増加し、平成29年度及び30年度において一部バス停留所の移設を行い、利便性の向上を図った。こうした事業見直しにより、路線全体の利用者数は順調に伸びてきている。運行面でも年間を通して、トラブルなく運行を継続できている。
- また、路線全体の利用者数も増加しているため安定した運賃収入を得ている。

4.自己評価から得られた課題と対応方針 (Act)

<自己評価から得られた課題>

- 1) 目標の達成状況に関する課題
 - ・利用者増が一過性の変化にならないよう、継続して利用拡大することが必要。
- 2) 公共交通ネットワークに関する課題
 - ・利用者の利便性を高めるためのルート・停留所・ダイヤ等の見直しを継続することが必要。
- 3) 公共交通の維持に関する課題
 - ・武豊町からの財政支援額（赤字）の更なる増加をさせないように運賃収入の拡大を進める等、安定した事業継続することが必要。



<課題をふまえた対応>

- 1) 目標達成に関する課題への対応
 - ・保育園への出張訪問や利用促進友の会の協力を得ながら、利用促進活動を継続する。
- 2) ネットワークに関する課題への対応
 - ・平成31年度より北部赤ルートを隣接する半田市の「青山駅」への延伸に伴い、半田市と連携した地域公共交通ネットワークの形成を図る。
 - ・南部青ルートにおいての利用拡大のため、ルート・停留所（移設・増設）・ダイヤの見直しを継続対応する。
- 3) 公共交通の維持に関する課題への対応
 - ・更なる利用者拡大による運賃収入の増加を目指すことに加え、住民に対し、公共交通の必要性に関する理解度向上に向けた取り組みを実施する。

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

武豊町地域公共交通会議

平成21年4月30日設置

フィーダー系統 平成29年8月1日 確保維持計画策定

1.直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ● H29年度二次評価 <p>平成27年10月の再編により大幅な便数増加により利便性向上と地域住民自らが立ち上げた「コミュニティバス利用促進友の会」による様々な利用促進の取組等により利用者数が増加していることを評価します。</p> <p>引き続き地域公共交通網形成計画を着実に実施し、地域住民と協働して、さらなる利用促進が図られることを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用促進活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用促進友の会を通して、各種利用促進活動を継続して実施した。 ・ 県や県警などと協力して「ゆめころんの日のりものフェスティバル」を開催し、多くの人に公共交通と交通安全に関する啓発を行った。 ● 利便性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ H30.4南部青ルート「市原農村広場」の停留所位置変更 ・ H30.10北部赤ルート「青山駅」「石川橋北」停留所新設にあたり、隣接する半田市を含めた関係各位との調整の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者増に向けた対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用促進友の会の活動支援の実施。 ・ サロン等で出前講座を実施し、要望意見等を集約。 ・ 半田市と連携した公共交通のPR事業。 ・ 青ルート停留所の新設を検討する。 ● PDCAの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 武豊町地域公共交通会議を定期的で開催し、事業の進捗状況を確認する。随時事業の見直しを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 平成31年度二次評価 再来年2月頃報告（予定） 	⇒指摘をふまえて検討予定	⇒同左

2.アピールポイント（武豊町コミュニティバス利用促進友の会）

- 「あいちエコモビリティライフ」の推進団体として表彰（※1）
 - ・ 愛知県が推進する「あいちエコモビリティ」の推進団体として平成24年度に表彰。
- 平成28年度 中部運輸局長表彰
 - ・ 武豊町コミュニティバス利用促進友の会が公共交通の利用拡大について功労団体として中部運輸局長から表彰。
- 平成29年度 あいち公共交通ビジョンに掲載（※2）
 - ・ 住民主体の利用促進の取組事例として友の会の活動を紹介。



※1

図 4-39 住民主体の利用促進の取組（武豊町）【エ.の参考例】

【武豊町コミュニティバス利用促進友の会の事例】

武豊町では、コミュニティバスが継続して運行されるには、「地域に愛され利用が増えなければならない」という問題意識を持った住民の方々が「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」を設立し、行政・運行事業者と協力しながら町民自らが柔軟な発想と行動でコミュニティバスの利用促進事業の企画や運営を実施している。住民主体の団体であるため利用者にとって身近な目線で多くの住民を巻き込んだ事業を展開している。



バスベンチづくり
(停留所付近にオリジナルベンチを設置)



コミュニティバスツアー
(観光ガイドボランティアとともに町内を巡るツアー)

※2

- 平成30年度 日本モビリティマネジメント会議ポスター展示

- ・ 「武豊町の取組を各地に広げる自治体職員向け住民主導の利用促進事業展開ガイド」と題し、武豊町と住民団体である友の会の協働の取組について紹介した。（※3）

武豊町の取組を各地に広げる自治体職員向け住民主導の利用促進事業展開ガイド

住民主体の「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」の発足
 自治体主導で推進継続が困難な状況に直面する中、自治体事業者や地域の有志を結ぶことで、民間主体による推進が実現することが必要
 →2012年 住民主体の「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」発足
 ○「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」の目的
 ・コミュニティバスを通じて住民主体による公共交通の利便性の向上
 ・コミュニティバス利用促進の推進
 ・住民主体の推進となる「コミュニティ」の推進

住民主体の利用促進の取組
 ①バスベンチ作成事業 →バス停留所周辺環境の整備
 ペンチをボランティア団体等と協力して作成し、停留所の付随設備整備を行う。設置の場所やデザインを住民主体で決定し、ベンチの設置を行う。設置の場所やデザインを住民主体で決定し、ベンチの設置を行う。
 【協力団体】 自治体職員とよ（ベンチの設計・製作の専任）
 武豊町民団体の会（ドライバー・乗客のサポート）
 ②住民啓発事業 →高齢者などへの乗り方レクチャー
 町民の認知度を高めるため、町民の認知度を高めるための啓発活動を行う。町民の認知度を高めるため、町民の認知度を高めるための啓発活動を行う。
 ・高齢者への乗車体験
 ・乗車体験の開催
 ・乗車体験の開催
 【協力団体】 社会福祉協議会（高齢者向けのプログラム実施）
 町民団体の会（乗車体験のサポート）
 ③体験事業 →バスに乗る「きっかけ」づくり
 観光ガイドボランティアと協力して観光ガイドを行う。「コミュニティバス」の認知度を高めるため、観光ガイドボランティアと協力して観光ガイドを行う。
 ・観光ガイドボランティアの活用
 ・観光ガイドボランティアの活用
 ・観光ガイドボランティアの活用
 【協力団体】 観光ガイドボランティア（観光ガイドの専任）
 町民団体の会（観光ガイドのサポート）

【資料】コミュニティバスの利用者数と利用促進事業の関連性

年度	利用者数	乗車回数	乗車回数/1人
H22年度	20,827	3,100,000	149
H21年度	20,827	3,100,000	149
H20年度	20,827	3,100,000	149
H19年度	20,827	3,100,000	149
H18年度	20,827	3,100,000	149
H17年度	20,827	3,100,000	149
H16年度	20,827	3,100,000	149
H15年度	20,827	3,100,000	149
H14年度	20,827	3,100,000	149
H13年度	20,827	3,100,000	149
H12年度	20,827	3,100,000	149
H11年度	20,827	3,100,000	149
H10年度	20,827	3,100,000	149
H9年度	20,827	3,100,000	149
H8年度	20,827	3,100,000	149
H7年度	20,827	3,100,000	149
H6年度	20,827	3,100,000	149
H5年度	20,827	3,100,000	149
H4年度	20,827	3,100,000	149
H3年度	20,827	3,100,000	149
H2年度	20,827	3,100,000	149
H1年度	20,827	3,100,000	149

※3

2.アピールポイント（町事業）

● バスナビゲーションサービスの提携

- 武豊町コミュニティバスゆめころんのダイヤや停留所の位置情報がインターネット上でナビゲーションサービスを提供しているサイト「ナビタイム」「ジョルダン」「駅すぱあと」より検索できるよう整備している。
- 従来は、時刻表や停留所にある時間を見ないと調べることができなかったが、ネット上で調べることができるよう整備している。

● はじめてのゆめころん（町内保育園への出張訪問）

- 町内全保育園を対象にバスの出張訪問を実施し、安全なバスの乗り方に関する教育等を行う。
- 友の会で作成した「オリジナルペーパークラフト」等の告知を行い、子ども及びその親世代の利用促進を図る。
- コミュニティバスのオリジナルソング「ゆめころんのうた」に合わせた踊りを保育士と協力しながら考案。踊り方の動画を動画共有サイト「youtube」で公開し、普及に努める。

● 市町を跨いだ公共交通ネットワーク網の接続

- 平成30年10月の半田市の地域公共交通網の整備に伴い、北部赤ルートを青山駅まで延伸し、広域な公共交通ネットワークとなるよう事前調整を行っている。
- 「愛知県地域公共交通活性化推進事業費補助金」を活用し、時刻表の刷新に伴い、半田市との交通網の接続に関する案内を記載し、広域の交通網に関する周知に努めている。

<ナビタイム携帯画面>



<ジョルダンPC画面>

